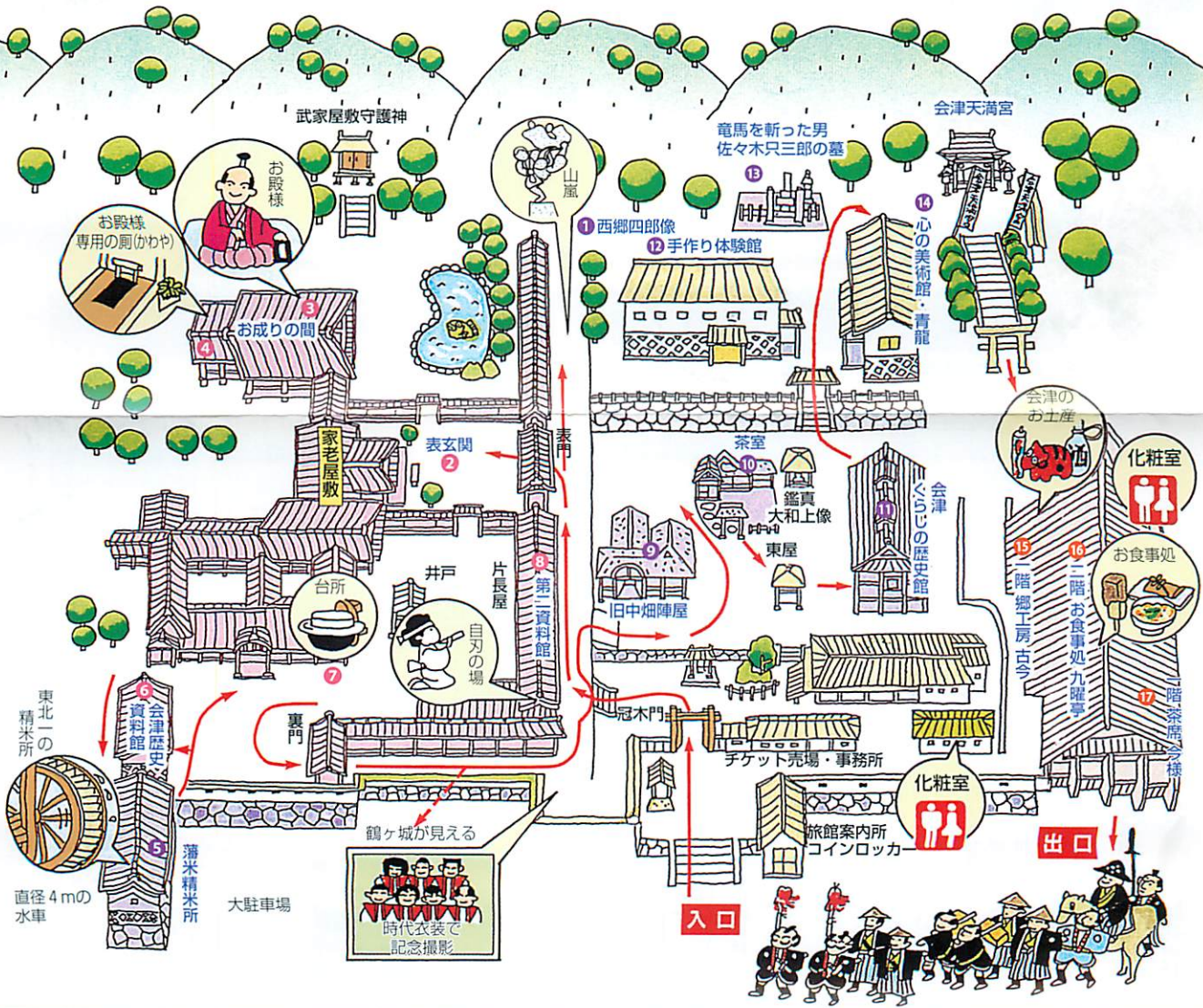


会津武家屋敷案内絵図



施設のご案内

家老屋敷(西郷頼母邸)

さいこうたのも

江戸時代中期の和様建築の粋を集めた豪華かつ大きな家老屋敷。各室三十八部屋には武具、調度品を展示し、冬期間は中に入ることでできます。

表玄関／表門と同様に上級武士だけが通された玄関です。

お成りの間／お殿様がおいでになった時だけ使用された部屋です。中央が松平容保公、手前に西郷頼母が控えています。

雪隠(廁)／砂を敷いた箱車が置かれており、使用する度に処理をしていました。中の方は畳敷きになっています。

会津歴史資料館／白壁・土蔵造りの建物の中には、毎年テーマにそった貴重な資料が展示されておりあります。

台所／数十人の食事をつくっていました。天井のない吹き抜けの構造で、太い柱や桁は雪国会津の厳しさを物語っています。

第二資料館／西郷家一族の自刃の場が再現され涙をさそわれます。

歴史建造物
西郷四郎像／西郷頼母の養子であり、小説「姿三四郎」のモデルとなりました。

藩米精米所／十六個の石臼で一日に十六俵精米できる東北一の精米所です。

旧中畑陣屋(県指定重要文化財)／一八三七年(天保八年)に建てられ、東北に残った最後の代官所です。

茶室(鎮南庵)／千利休の子、少庵が鶴ヶ城本丸に造った茶室を復元しました。

会津くらしの歴史館／会津の歴史と、そこに生きた人々の様子を紹介しております。

手作り体験館／赤べこ絵付ガラス絵彫り等の体験館。
佐々木只三郎の墓(電馬を新った男)／京都見廻組の与頭として京都警固に尽力しました。

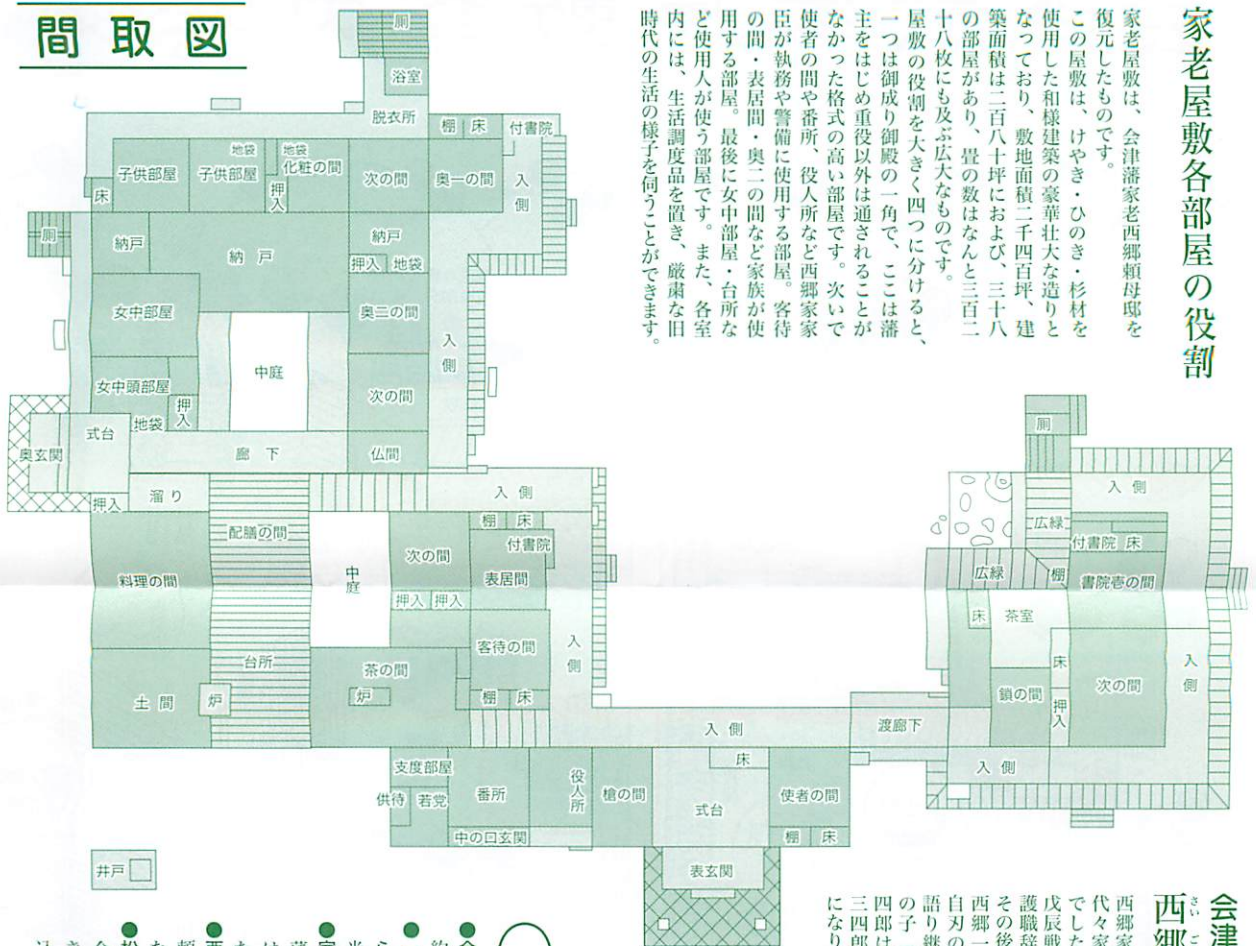
心の美術館・青龍／会津を代表する仏像を中心に、心の世界を描いた日展作家・室井東志生画伯の絵画を展示しております。

お休み処・お買い物・お食事
郷工房(古今お土産処)／伝統の中でつくられてきた名品の数々。その選りすぐりを紹介いたします。
お食事処・九曜亭／郷土の四季をとり入れた手料理をお召し上がり下さい。
茶席(今様)／くつろぎの一時・軽喫茶のコーナーです。

家老屋敷各部屋の役割

家老屋敷は、会津藩家老西郷頼母邸を復元したものです。
この屋敷は、けやき・ひのき・杉材を使用した和様建築の豪華壮大な造りとなっており、敷地面積二千四百坪、建築面積は二百八十坪におよび、三十八の部屋があり、畳の数はなんと三百二十八枚にも及ぶ広大なものです。
屋敷の役割を大きく四つに分けると、一つは御成り御殿の一角で、ここは藩主をはじめ重役以外は通されることがなかった格式の高い部屋です。次いで使者の間や番所、役人所など西郷家臣が執務や警備に使用する部屋。客待の間・表居間・奥二の間など家族が使用する部屋。最後に女中部屋・台所など使用人が使う部屋です。また、各室内には、生活調度品を置き、厳粛な旧時代の生活の様子を伺うことができます。

間取図



会津藩家老 西郷頼母近慮

西郷家は、会津藩松平家譜代の家臣で、代々家老職を務め千七百石取りの家柄でした。幕末期の当主は、頼母近慮で戊辰戦争の際、恭順論や藩主の京都守護職辞退を進言したものの容れられず、その後数奇な運命をたどりました。
西郷一族二十一人
白刃の悲話は今に語り継がれ、近慮の子(養子)西郷四郎は、小説「姿三四郎」のモデルになりました。



10x6

- 会津武家屋敷の総敷地面積は？
約七千坪。
- 一石(いっこく)とは今でいうといくら？
米二俵半。
- 家老とは？
藩主が藩の中心的存在とすると家老は実務の責任者で、四〜五人いました。
- 西郷千重子とは？
頼母の妻、白虎隊敵沼貞吉の叔母。なよたけの辞世で有名です。
- 松平容保(まつだいらかたもり)とは？
会津藩の九代藩主。京都守護職を引き受けたことが、会津を戦争に巻き込む原因となりました。

ご来場記念スタンプをどうぞ。

